

●「アンパンマンで高知の活性化」(アイデア賞受賞)

知事： おっしゃる通りだという感じです。西武跡地にアンパンマンミュージアム型複合施設は難しいかもしれませんが。民間の方の所有している土地なので、その方が自分の商売として成り立つものとして、今後やっていくことになろうと思います。できるだけ高知県に相応しいものにしてもらいたいと、今後も話をしていこうとは思っていますが、最後は民間の人の決めることになろうかと思っています。はりまや橋周辺から高知城に至るまでの、昔から何百年も高知県の中心だった東西のラインで観光客も呼べるようなまちづくりをしていくことが重要だと思っています。観光客を呼ぶためには、いろいろな形で高知県の持っている強みを訴えていくものにしないといけません。

あと、確かに水木しげるロードは境港で大変ヒットしています。あれにならって、アンパンマンをもっと前面に打ち出した道とか、エリアを作ってみるのも一つの手なのかもしれません。高知県はマンガ王国で、人口1人当たりの漫画家の数は多分全国で図抜けて多いでしょう。高知県はそういうキャラクター創造力みたいなものがすごいですから、いろいろな漫画家のキャラクターを一堂に会するのも面白いかもしれません。とにかくこのマンガを生かして、中でもアンパンマンを生かして、その力で高知県を元気にする部分もぜひ作っていきたいと思っています。

先ほども話がありました、やなせたかしさんが作ってくださった「野菜11人きょうだい」のキャラクターは、子どもが引きつけられるらしいです。多分アンパンマンと同じ香りを感じるからでしょうね。やはりアンパンマンのパワーはすごいです。だからぜひ高知の活性化にいろいろな形で生かさせてもらいたいと思っています。アンパンマンロード、マンガロードは面白いかもしれません。いろいろな知恵がもたらえて私たちも面白いです。体験型ジャムおじさんのパン工場も面白い。幼稚園の先生に聞いたとおっしゃっていましたが、小さいお子さんの気持ちの分かる人に聞いてみるのはいいことでしょうね。

高知県内の大学にアンパンマン学科を設置するのは、すぐその通りにはならないと思いますが、ただ、子どもたちの食育や地産地消、また商品開発や地域活性化に向けて、そういう学科ができる方向で県立大学の改革をしているところです。高知県の大学改革の関係で、今、大きな課題があります。それは、高知県には社会科学系の学部がありません。例えば高知県には経済学部がないので、経済学部に進学をしたいと思う方々が、みんな県外へ進学して、それきり帰って来なくなるのがたくさんあります。高校生にアンケートを取ったら、もし県内にあるんだったら県内の大学に行って県内で残りたかったという子がかなりいたので、経営や経済の学問を高知の大学で学べるようにしていこうと一生懸命考えています。もう少し時間はかかりますが、来年春くらいには「高知県の県立大学はこのように変わります」というプランをお示ししていこうと思っています。

教育長： 私はこの提案は大賛成です。楽しいですね。今、高知県で一番観光客が行っている施設がアンパンマンミュージアムではないですか。坂本龍馬の次に人を呼べるのはアンパンマンではないかと思っています。正義の味方で、弱い人には自分をちぎってア

ンパンを食べさせてあげる。こんなに夢のある話はない。可能性を追求していきたいと思わせるようないい提案でした。

知事： アンパンマンがどのくらい昔からあるかを知っていますか。実感として言わせてもらうと、今 42 歳の私が幼稚園のときに見ていた本の最後の表紙でアンパンマンを 4 コマでやっていました。だから、38 年くらい前にもうありました。時代を超えてずっと子供たちに支持されていますから、やはり何か子供をつかむ魅力があるんでしょう。